

⑦完了

スキャンされた画像をフォトショップなどのレタッチソフトで最終調整すれば完成。フィルムをセットしてから仕上げまで時間にして約10分でデジタルデータ化が完了。当然だが、スキャンの精度や解像感は一級品。



エプソンに聞く

——7年ぶりのリニューアルですがねらいは？
デジタルカメラが主流となったとはいえそれはここ15年ぐらいの話です。フィルムの時代のほうが圧倒的に長いわけです。ただ、フィルムは時間とともに劣化してしまいます。せっかくの財産をそのままにしておくのはもったいないですし、デジタルデータ化にすることで取り回しもよくなります。実際、GT-X980を発表した後、予想以上の反響がありました。

——主な進化ポイントは？

まずはフィルムホルダーです。アクリル板を取り付けることで、フィルムの平面性を出し、スキャンの精度を上げる工夫をしています。また、LEDライトを採用することによって起動・復帰時間も前モデルと比べて大幅に短縮しました。

——スキャンのポイントとは？

適切な解像度設定です。解像度が足りなければ、プリントしたときにガタガタな写真になってしまいますし、逆に必要以上に大きな解像度設定にしてしまうとスキャンに時間がかかったり、ファイルサイズが大きくなりすぎたりと取り回しが難しくなってしまいます。出力サイズに合わせた解像度の設定をおすすめします。他にも便利な使い方をエプソンのポータルサイト※でご紹介していますので、ぜひご覧ください。



※<http://www.epson.jp/katsuyou/photo/manabu/kiwameru/theme3/p1.htm>

④写真を選択

プレビュー画面が表示されたら、次にスキャンしたい写真を選択する。プレビューの表示はサムネイルが簡単で便利なのだが、取り込み範囲が自動で設定されてしまう。自分で納得のいく取り込み範囲設定するなら通常をお勧めする。



拡大

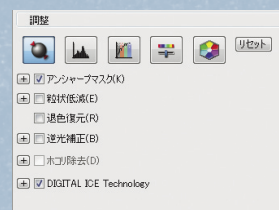
⑤解像度と出力サイズを設定

スキャンするときのポイントが解像度と出力サイズの設定。解像度を300dpiに設定し、次に出力サイズ(プリントしたい大きさ)を変更する。ここで失敗してしまうとせっかくのスキャンが台無しになってしまう。出力サイズが未定なら半切程度に設定しておこう。そうすれば後々写真展などでも使える。



⑥簡単な画像調整

簡単な画像調整もできる。今回はシャープな印象に仕上げるアンシャープマスクとフィルムの傷やホコリを赤外線検出で補正してくれるDigital ICEを選択。後はスキャンボタンをクリックするだけ。



前モデルGT-X970から7年ぶりにリニューアル。さまざまな改良が加えられ、より精度の高いスキャンができるようになっている。35ミリはもちろん、ブローニー、4×5、8×10のスキャンにも対応している。

価格:オープン

☎カラリオインフォメーションセンター ☎050・3155・8033

<http://www.epson.jp>

GT-X980

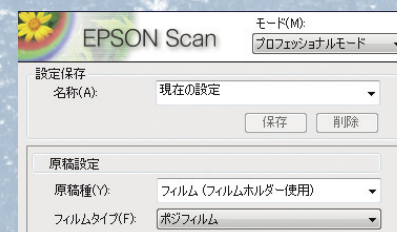


②スキャナーに設置

フィルムをセットしたホルダーをスキャナーの▲と合わせて設置。保護マットを外してカバーを閉じれば準備完了。



③専用プログラムを起動



EPSON Scan (スキャナーに同梱) を起動し、モードはプロフェッショナルモードに設定する。続いて原稿の種類やフィルムのタイプを選択し、プレビューボタンをクリック。

データ化しよう！
【スキャナー編】
スキャナーを使ったデジタルデータ化は、もともとベシッ的な方法。今回はエプソンGT-X980を使用。難しい作業は必要なく、いくつかのポイントを抑えるだけで簡単にデータ化が可能だ。

①フィルムをセット

ブロアーなどでホコリを除去してホルダーにフィルムをセット。今モデルからピントのばらつきを軽減するためにアクリル板が装備されている。ニュートンリング(環状の干渉縞)の心配もない。

